

安土町地域自治区長だより

No. 54 平成 25(2013)年 5 月 8 日(水)
発行 安土町地域自治区事務所
(安土町総合支所)

<平成 25 年度第 1 回自治会長連絡会>

4 月 13 日(土)、安土町地域自治区の 39 の自治会長の初連絡会が開催され、会長以下役員が決まりました。その後、老蘇学区と安土学区に分かれて、「まちづくり協議会」の評議員としての協力を、まち協役員会からお願いされました。自治会長とまち協の関係は、車の両輪のようなもので、地域主導のまちづくりに取り組まれます。



📍 市長のあいさつ



📍 安土学区まちづくり協議会



📍 老蘇学区まちづくり協議会

<里山整備プロジェクト>

5 月 11 日(土)の「里山ウォーク」に向かって、立ち枯れの樹やベンチづくりに汗を流しています。総合支所に朝 8:00 集合で、2~3 時間コースで、誰でも参加できます。

【連絡先 46-3141】



📍 立ち枯れの樹を倒しています



📍 西の湖・安土山がきれい

<体育協会が解散、学区体育振興会に>

4 月 21 日(日)、体育協会の解散総会が開催されました。続いて、老蘇・安土学区に分かれて「学区体育振興会」が設立されました。平成 25 年度は、「野球」「バレーボール」「ふれあい体育大会」は、両学区合同で開催されます。



<西の湖元気なまちづくり事業>

4月26日(金)、「やすらぎホール」にて開催され、西の湖を中心としたコミュニティ・ビジネスの設立をめざした取組みの計画を協議しました。ワークショップやイベントを展開します。



<安土中プール建設進む>

中学校のプールの建設が着々と進んでいます。更衣室や機械室の建築も出来つつあります。



👉 4月下旬の現場

<お堀巡りの和舟運航>

4月20日(土)から土日に午前10時から午後3時過ぎまで運行されています。最終日は、信長祭りの6月9日(日)です。



👉 5月5日(日)の風景

<視点>

・合併4年目のまちづくりが始まった。この間「安土の名前が無くなったのは寂しい」「安土の宝物がどんどん無くなっていく」「総合支所は名ばかり」といった声を聞いたし、これからも耳にするだろう。市と町が合併するという事は、よく結婚に例えられる。その結婚式の祝辞の「結婚前は両目ですっきりとお互いの長所・短所を見て、結婚後は短所には目をつぶって、お互いの長所を見つめて良い家庭を築いてください」とあったのを思い出した。

・また、石の上にも3年という言葉がある。学校経営でも、学校づくりには「1年目は蒔き、2年目に育て、3年目に刈り取る」と教わった。自らの地域は、自分達で守り、育てる気概を持つ「協働のまちづくり基本条例」のもと、学区まちづくり協議会の設立は、喫緊の課題であった。学区まち協の発足は、新市のスタートラインであり、それぞれの地域に合ったまちづくりの切磋琢磨の土俵であろう。

・老蘇学区は、昨年4月に発足。安土学区は、この4月に発足。これで新市には、全ての学区に、協働のまちづくりの体制が整うことになった。それぞれの学区には、その土地の風土・気質・慣習・文化があり、その違いを大事にして、故郷づくり、未来づくりを行おうというのである。

・老蘇学区では、「中山道」「観音寺城」「老蘇の森」「十三仏」などの歴史と文化、大臣賞に輝く農業の営みと新しい住民との発想を取り入れての総参加のまちづくり。安土学区では、安土コミセンを拠点にした「安土創発」という未来の安土に向かって「創造と発信」を企画した事業が新しく始まる。聞くところによると「ホームページ」も開設されるとのこと。5月1日には「タウン誌」ならぬ「学区まち協だより」がそろって両学区から出された。

・目にも鮮やかな若葉がでそろそろ5月。ぐんぐん育つ草木の生長とともに、新しい発想のもと、両学区の良いところをどんどん伸ばしていくまちづくりを期待したい。また、安土町地域自治区も「地域協議会」という市民目線での素晴らしい提案や協議の場における意見をいただき区長としても地に足をつけた取り組みを実践していく決意である。

・何色にもなれる未来を願う朝

白いガーベラ君に手渡す (万智)

子どもの人生は子どもの手で色を塗ってほしいと書かれた句である。

(木野)